俳風新多留

二十三編

へ9
1147
22

22

門へ9特
號1147
巻22

二十二篇

淺艸新堀端

元次郎橋より柳原通り迄、
河すじ、あらためもとせ、

考士川柳撰

むかしこゝろのおくゆかしき、
やまとき、梅、いろは、縁
ゆかり、北斗、愛人ふりー、

万句合板書

れいさいあのく奥ゆ
とし〳〵なんじゃう
なり

誹風柳多留

毎年正月吉例たる
角力番付
申春、利加入

花のかゝりとよのやとの実井ー雪れ夕アまで云乃たくさの
清きやこぬこの功なるあゝと書ーそとし〳〵
やあるさ多ると見まる。もはしのなかちちもなり
ぬ士考士のむりまるを稽ぐ〳〵 呉陵軒可

関札を打かくさせるふじの雪
ふのはへ雪ちんで閑寂あり
林鶯梅 ふくめるけいをそむあり
仁和寺の茶だんハふるがまちやうじ
居ゝことをあるさのが作の吹き 紙
平家とかゝぬとゞをハ祝しものの
ゞゝでもをるふぶちまつおとかきあや
ちんでもとゞゝ後悔ごそゝそう
ゝ系の狐女房を持つとおち

はれて行かゝゝ行ゝゝ ほとゝきす
法ちやべてゞが来ゝとさんふへ行くと入
ゞちかゝ ささいゝゝを一つとり
むぶとせをしてそらはんの恋とする
で中ちもい中ぶ大いそへゝそゝそう
ゝゝ后具法事ていゝゝめの姫すぶり
不二を見ゝゝしてちかゝのおちるふ
大門へかゝり門の ゑイ 大 一 ゑ
三人で武蔵さゝ
かゝるゝ

ちんをたべてもらはせ上ろうそく
母のろんをもらうものをおとして同じもの
をつつみ首かけをしてでるのをいて
い山で一さつ計の書物出来
おかるは金　きこ　ひかり　ろう
いん時とはんえきしたくいにそを
かく結とをむく古風か因式ない
おやこらと問石書てだ神仏くし
てやくかえりかさいよは立上がり

夜八ときで三河しかと世帯い
ちんをかるをかるふるとけてる事ちかえ
法ばらんらいを一字でぬすき
うちんやのえるをかぶこやまじくい
ミの木るとえ天さしておるさかり
ぶつぶつ申してアしかりかるかるし
引おいのろうん手紙今すのく
下えちんむぶるちやぶいおこい事
毎日草木つるさ法そちをかげ

てんがい紙おりはうち他人より
梅ゑハ二月のすえ京とさち
ゆ半橋の中へすんのり馬くゝ入
ぞうるゑゑい梅ひ[illegible]ぐしたんぶじ
うすゑ屋ではせ九日ひまめ子
なりい切おてゑ[illegible]のゑし毎
松わざりしゑゑとしかうのごうり
どゆぞでいまうのかそすか店か居ん
ゑれとゑくおさ[illegible]むの紙

ひ[illegible]いそぐおばはのゑくとうゑ
ふくゑゑが又ゑうしと人西が出う
紙屋ゑとりそんゑゑくとうかさば
人ういのひぐはの方ゑ
関渕ゑ出せうぐりゑ
書ふいまくゑすんと唐机
りゑ屋ゑくゆゑう姫の袖
ゑぐまりうぐもゑり切ておぐうゑよ
わゑくうが下ひとゑかぶい不一切

[illegible]でんハえ[illegible]
[illegible]ひ[illegible]ぬ[illegible]
ひぶしまーとうもつぐ[illegible]
そのくさのくさハふ[illegible]
四でくふ荒いさ[illegible]
すごとのちりまふ[illegible]
いざり松すもも[illegible]
もびやすくさくらう[illegible]
いせやふうはたん[illegible]
[illegible]べひ[illegible]
ふびのそすの[illegible]
ちりそのの四へ四[illegible]
筆ぶくろ姫[illegible]
[illegible]ざをつの海へ[illegible]
吹っそんぶふぶく楚[illegible]
糸ふとるかまぶ上下で[illegible]
後部ふ[illegible]
ぶんをいのてぶで[illegible]

あまをけうまゆくてきぶんら
いあり　さ　世房ちせとせだりうまし
おらけうちやちやうかまにざやら
らう宅へいまこしかひいい　ゐみ
いらうこい後部でんぶんと初まる
ばちりはそ我　はけり　せげまる
ふまうふ　姫　関うとおいいじ
死かたうちをまるうて小神
あり猫ハ海まるかけをけんぢら

かりくとおるばんぶくあうまる
すゆんぶうろこやハ首かたと
百人でまんハぶくおらぶんる
そどの四かつぎ古法をけて居
石ーのせいぶうのと者でい
まけを夢ちうでまけてる
ゆうこだと石をはぶかけるぶる
物のおうぐろか見四　二　三　人
ぶうまんり今ちの夢ふかえ海の色

光て高と長田ゐるびしゝ高のそ
ゐのうぐんしく所々かるば
きつりをぼんたちのかごで奏
ゐのすハ出動ゐ高とふといくゐ
おつりハゐでめくてすいつゐる
すぐしさ男そのそくくどいたる
のごんハ川どゐるのうそとつさ
ゐすぐぐそかゐ高てくゐ
ひするゐりくゐ三おがそのハゐり
くゐハ安如天のそのすかと
はゐるはいゐを高るおすゐ町
はゐるはいびさん中おや高く
小姐ゐのゐさ如房を高るそち
移ゐ高くちんわぐぼかく
ゐいゐ高中小ぐてかそゐくゐ素浦
如房ゐ高ちぐ関ゐ関見ゐ
ゐはやゐゐはゐさゐ高ゐ人ゐ対
ぼげのゐん男判ゐるとかく

[illegible]
いもとぶら[illegible]
[illegible]
下引[illegible]
[illegible]
[illegible]
すごく[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆきかさて元ゆき紙白紙玄冥毒
ちづしそのとおづそ
おろんとおろそ
十三日やまと貞紙えく芝とりて
一ケ月一ケ月をかて
わんどうも二ケ月しで四りそ
法ちりしちも高ゆくさくらつく
ひそしそうそ出ちらいさ
のしゆそ上下ど

海と山とくわそ紙くそ
小うへ一店をおそちそどくの師
すし家ハおづしりぬそ小
妹とひおとわんどつそる
そうひいそんくそ角ハ面ゆ
五月十ゆの宗有ちん半
海さそうへぐそくと名とくどかす
さよちもやけとんどてちと立
なんつまよ夫ト宿四すり

おつしくも江戸表へ参り
ぬけてさようもつかんたんに立でいて
ゆく〻笑り金とあやぢいくあつて右か
ま合ゐそろへぐしいまつ聖もふれいるさ
ゝのゆゑで琴代おさんらはきんん
あやまりてはいとお人のてゐを始し
さそたいのとがおゐくとはやはるちらき
ゆゑのちきぐ笑ゐ鶴ゐまへか之
右ぐしろ笑へがけんはうまり
ちひらすりゐ酒ちそ笑元之梅
かぐけしり杉毎はけちゐ義武現て生き
金ちがついく物ちんたちゐばん
二方右かるぐちりゐきちそゆる
下戸へ礼しりくゆ扇ハ引ちそ
世し行けゆのはを浦くうち
元ぐるきとくゐの伯如小あすちゐ
月と行ちゐつぐ小出見せを右い
竹池のけしそへ来るかやいうき

はぎくわん人トの河ぶがる色がいろ
みナはしちうとくんでく根はの書
くゝ屋ゐてしてしろ紙と一つゝゐ
白ひくハこ月ちかゞつまりゝ一しに
ちゐぐりのかゝしゝ高ゐ紙すてゝ
八文とゝくせゝ法ゝ一ゐてゐさ
村ぐんざ日のべゝ人ゐの赤ゝゐて巫
畜ゐゝくさだき法しゝて赤ゝまゝる
ゝゝくゝ小見ゝるハ元のゝゝらぐゝ

法華経前記甲さ紙とのぐいゝゝば
死ゐんゐゝゝゝひすゐゐゝゝふゐい
海けゐゝくゝゐんさよゝゝ波とゝゝく
一屋んハゐさもゐさゐ巫ゐゐゐの
正月ハくゐゐゐ小松法くゝ出し
ゐくゝ益とゐゐ海くゐゐゐ柳ゐし
妻ゐゐゐゐんすゐぽんつさとゝゝてく
三十月ゐ法ゐゐ法が こ法ゝん
ゐづくゝいゐゐゐ色ゝすゝと筆ゝ出し

なるべくハちゝくなりのハちゝ屋さ
所川てやくとしはけるふとんやの
ゝあるゝくとしたものの内義はふ後ぐらし
十人ばかりけて見るこのでうきのもり
ゝゝちゝがゝくゝちゝけてかくゝ九ゝ居る
内ゝちゝゝゝゝゝ　ゝかおいかくゝ泊れる
ゝゝけつけゝゝゝけて出やゝゝ　山房
家ゝゝゝゝゝ　家をゝるゝゝ丁町
ひつゝゝゝ　いゝゝゝんゝゝゝゝゝゝる

いゝゝりて武沢山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てくしのつくて手のくふりと月
祇おも意くしうとも天部ぐうさ亜
ぞんのうり紙くうじ人こそっある
葉ば法ひ世房おほれるだうかう
かり全ば完とかくわかはりむさま
くあ海都ていんごうの会ィ船うさ
すい孔ゆすく人祇ら首ぶして書
百やすで首ば一つ門さ店ゆし
りざたるちを祇ちるかるい沢

どうら一さ馬かのけちとき
ゆうるんねらげ琴弟成言ぶおよん
書きぶとよ紙で下ぐら ゆ角うち
すりえのでふくうたとるあいんさよ
かうう面いくるうしの也
附ら ぞんいさい法池大寺 祇り
ぞどいるやてと京沢回 居ゆり
いそぐのかさそ子どもようけぬよの
手んうし 絵ハ 茶法あとくいぶり

ぶんはのきうと夢やみくやもしたし
ちくがやくはくはくをかゝるけんはは
むおいおぢやうさしとゝあるこゝ
寒人を迎しはは あらもおぢ
ぐくかはちうきてかゝこがゝはひやう
おぢりゑはは へ祈りるのさるは 糸
はゝるかのゝるくけりとはは月こ
はくりと二人りゝくひくづきこ
ちせをたきるをめしはさんはは者

板かちゝはさはてさ
ゝんとすべのうべゝるきしとすべ
はもはるはゝうさしとおうづきえさる
もしき寺りしすべやさゝしゑ
ゝるとゝるをわおいはるおゝがはし
ゝゝゝ方でもゝうんでゝやもを中細云
金はおりしさくもゝ
丈ケかはの母きるはくさつくはさはう
はきさくゝゝきはくはゝ合ぐゝうき

石人一首おもぢともき人べへて亜
うらぶぶ亜 ぶ 亜 源三位
ぶんぶくくと小波 編ぐうとかまら
無 亜かしやしぐ くれてあづかり
亜ふらかおるる十日の人だうり
亜はしてはいぢの宮とよんぶい
ぶいきふ引 林のかくこそうらし
おくとそるる白いぢんぶ法亜ふかまら
亜ふいさぶぐ 無おしぐ ふ

ぢんこそうかくくと知として 姫へ法
江の海の亜ぶじくんひぶいるぶ城ぶる
時ぶ ぶ 欲るぶば とんぶ ぶう
さんこいのふぢんかつる亜ぶや亜かぶ
三亜ハぢんいうぶ亜らくおくぶ すぶ
石ぶくでとうくさぢ亜ぶ志ぶ法し
亜ぶいとくばくくて法るそん林や
亜くてるとハぶすぢとくて亜
猫ぶハぶくぶの 石料 ぶして 亜

[illegible]ふ成銭 日野り
病人ととりよせくすしを医者
なしじゃとさんとしをいてゐる
やうなるものゝらとわんして和合ぎり
はさのぎいくらふさぐ地をく
山ぶきのむぐろ そ田 [illegible]
ひろもふもりしろいかもよしの地
百あいきく あいがたぐさい きえん
ものゝ芋でぶりめる後乃事

[illegible]ふ一ワ十八 かゝる所り
[illegible]ふみそばぐる
[illegible]ふ 血をとる ざ
[illegible]や にゆ用 [illegible]
[illegible]ん [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

初うつ[illegible]ゑもさき　だれとてうせば
あつまり腹弟[illegible]ひとさんかうする
ちうぶんが武百がうこで見えぬく
[illegible]ふ[illegible]ろうのとむおいゑ[illegible]
揚枝屋ざん茶[illegible]もうさ[illegible]
ぞやれ[illegible]のくりとおぐ[illegible]
すき田ハそだ[illegible]のせ命ちい
ゑでくふむ[illegible]毎晩[illegible]
[illegible]

南風ぐ[illegible]中ま[illegible]いらくそ[illegible]
八まんれ氏る[illegible]ハ見ぬ[illegible]
九十九ハ　を[illegible]で一首ハ[illegible]
京[illegible]ま[illegible]大[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぶりかまぼこ蒲鉾どん うかびけるさせ
大屋しらしらあけすけたるもてあそびまち
うんのようさそうしく二人うちつれ
すぐしらしいそうくちくいとかぶのうち
おいさのおぶしてえきたる出さき
丸そのぶんぶんぶん

[illegible]の[illegible]りの雲に　[illegible]
[illegible]たまひし[illegible]
[illegible]のおさなくをやをてゆめ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あんしゅうのくにから中ぶり
ものをいふ　ものくるくるはなをず
ぶとくとおくはなをくるくるとくるくるはなを
ぶはなはかんうくもくるくるはなをぬり
くくれかるさどころへ　ぶんやう
ふるまもくるくるもくるくるいかはすもくるく
ぶんやの　はなはかすもくるくるまる
ぶ　ぶんしやうはくるくるまる
ふんやうぶ　ぶんやくるくるくるくるくるくる

金ぶんやうぶんくるくるくるくるくる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

そばだちのあかしくもあはとうら
ゆうらうれたしいらいや 大一社
年ちのしるかい 大佛 おてまん
くさはあとくいいかま 日蓮ときり
かうらうと色はいりぶでのぞいてる
山下でろんさんいかりすせは
ろうかれてふと弱世へ 花さいび
すくさーとと入ちりぶきりり
年拝殿ほ彫とかかさ

ひするとひがくく大ちでこさ 始てうら
いあんるおやぢのゆかるめがかり
ひくされとなくぐて見るときうがさめ
そうの尾もさくくのはハるんで行
おくぶやうかさやくやこの夜ふかあて寝る
外こ色後書古ふ亜 ふりかくし
るやす見 世ぶてうかこや ちりり
いこはるふ後和 四茶かくうこうが寝
ろさーでぶりすおよと若しさ 京

うけたまはるちうくしを字仕へうとて
おくさまの三ゝさんちうを出あく
えきり月が二日のうかう 合試はあ
うそ人のうきゆを乗 川 をつき
茶のこさうじさえやうハけちかえ合こ
他人はそこ海り見物と祈ゝ
古池はそこくえ世ハぢうりをる
居角力の好事ハんどんかうき
吸口をこがいてりてと祝文 ひ

はてうけのうんぞおかしく白ひ
かいろ見ハ屁とはうりてかうり祝
ちう三ハのおいうくうちかうりはは
西ちうやのいうりとて角ちやうく
ゝさえきとのせうはいるハえ中り智
ゝりちうち西ハ祝加をうりて ゝう
盃のもうえ角しう ねぐしぐ
死人かいりゝ 逢うやまとはこ
二ケおくのくしのふうくさつ

のぼりかた世界にまれなるこがし
見られて武蔵のやまかつ塗て行
いそぎぶねいのぐ法師出来る
四百三十七万余りそくしん
今はたかばかりハ海山こうと金
いやくしさめうゆ山法華とそしり
りゑとゑびかたちとうはぎし
やくらけ〳〵ぶりこうはうも法
金ぐそれ世のそうと

どうぶつ世界や寺さと稲てかゝ
とりなもしよぶるも男えらこせんや
くやこういつけくそんとくしゝ
ゑやくしまくぶ梅井は男たちさし
りをやハつきらいどうはがりおぐり
下祈入りてもやけどり浅の音
やくばかりまでやりはくかんと法
玄藥寺さ志ちおくさハかすくるし
どうぼくを傳しするひぶいる

はしのようくはえ〳〵と書かん
かさしてさんばを法ろひて
ろくぶいの無ひすると
はるそよ高法りさん者ゆるる
えふ式さん法ゆてうやまて法遠
双古れ法堂出ゆる沙を
おらーさいすて子とされてお法ん
法のくかはつーしのようは之
りざようか出りり島でうけして

はてらうくのすをもひ
かうあや之出も法つぬ法りかする
ゆふへりてうこ式世房うらつかとも
重のようでなるうんすかへと書たゆを
里かえりこかさはしへるる女ば
なん国志よめはがくくを法遠ぬくく
よの胡ありりえくぶざけうこと不世房
こじ法ぶ山者んもはるくのはないさけ
房小式変うへ本を亜法るこ舟

かしこい武士さまめんどうへ入て金
田かさしかしかたてくる男ゝさま
波かり遠ゝと西ゝ空とくる
ひとりの琴いらしゃいの下地く
きりくやかをいのとあじしく波寺
世つぎもしのんぞくおうでが来る
やくあそばゝ者人の芝居ぞやこ
百さじ〻さそしおそらしゝを人こ
かやさうらの清ぶんの式祝さまや

ゝゝ人がゝうぜおもへぶう者せゆゝり
ゝゝいゝみ人でを人りとさゝ第
ゆゝべ物ゆゝれおてきゆゝがらんとを
ゝゝのいも洗一おの式でくやゝりゝ
四ゝくゝてもんとおゝゝやもゝ村ゝ食
がゝか入ゝてがゝゝゝゝゝゝゝゝ
和川のゝゝやゝゝいゝゝ芝山ゝ
ぞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ斗ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

小夜と四十人せばしく居る
ぢやん礼のやうふたのをあけて居る
するりぐ引たてをしでとのぼる
いもの毛を取り武り上げ
いんくつかてらいあづらを
いんをかるをとてをさをさ上て
ぬぐくつゝ云ひづてとすら色云帝
勝つこゝろ逃ゝ母およて如房び
ぐちぐちり正ふ九月が逃ゝむさを

ゆをの内くゝ世のびより走かゝる
ぢやまだ夜ハ明りぐかりぐ
だうアちぎきんのうみ平をてをり
せんくふこぎくきし八百い
出機嫌を見てハろんごかぎまを金
賀の祝ひんを小助さを取
夜伽はさんの孫んで孫さぐ和を
をのとつのゆくをを場で喰ひ
ちゐぐりとすんでぶ緯でをかるとこ

おくはとちうかく出シホウをもち
ぜかんに成の六月ふじの山
かん雨ふ　ちうゑの有るゆらゆま
柳ちゝぶらぶらいとつんで出し
大さ一ぢうんぶそをちうかこいく
そこ実をおきくて女ナ島ふのり
雪かきか傘屋の見せくすけてあん
ゆひのふがまんしと伯父とハふをかあり
まつぶもちまぬとちやちゝ

御七二八　三十

西のそう　みをつる夜内かく　ひよぐり
毎まし　ゆをの　ゆ出かくますとせしめふ子
きぐの　ゆつきみ　ちのかり
くを　ちくちくふ　ちの下ふ
刺りやふ　ふ　ふにげる　おくと
三浦やの有ゝ細見と　ちやぐち
申ノ月吉例　鼠市　會　是ヨリ
万ざひで　ゆひ　命　との　ゆ　ちり　川長
伝法でも　京く　出　の　ぶ　ん　形り　新示

きつひるナ三里有ん馬場を宮り如雀
さいと指チらうの すげかくれて ゐる 中葉
伯又とがよるこ 雅しきの ゐくらさ 久多
かくとすると 紅ゐふ ぶがき 古書
殓むしい 浜藤 万濃しく 夜ゐ 雲好
大門とごふくや 一家 丸し する 全
年号もらしの 方ハさらきめ 本綿
あイこゐ下 故 ふハそくふ 赤ホ
ゐちごやのくだ 妻かぶ 力セキ

三十二

三とふのくあの方がかしゐ 物声
ゐアふハさいふあ さふさ 箱 中葉
ゐ為めてしまむと 綱を安くつけ 久多
ゐよかつアゐ多 面しの ゐと 赤ホ
金指チへくぶう 糸りの 美しを 川長
二三人 海ゐも 海るやくとゐん 物声
今川ハ父百人 貢 ゐ しく 久多
三めくりの 作為ふ ゐ ゐ川 カメル
さらう 菓子がう 天井へ入れて 賣 動喜

如くさくの乃をを持つ名象形り　玉章
きゝおよぶ武者條ゆゑんなり　仝
元ろくのこ後ハつていてかゝるとき　仙羽
ろくいかも三人むつうん　花口
白二ハ池とのゞひてゆつがくれ　狐声
和作ゆもたかすけも姫ゆう堂　玉章
さろくと不人急ゆ孫んと入也　カメル
思孝で有るのゑゝゞとめ　玉章
やりがふゝゑゆで素ゑ合めけもの　赤木

此をゝゞけ二ツ目の有ゝとろすゝ　横好
ろゝゆのゆり卑ゝゝゆ不家ゞめ　和笛
下谷のハ仕合芝ハ和ゆ也　風況
孫んをゝハゞゞだと紀ゞくゝきゆ　中葉
きゝゆゆゆの有ゝ人年孔ゆ不くゆ　高舟
ゑゆの孫ゝひハ綱根ゆゝて加ゝ　法江
約ゞめと不ゝ後麦ゝりゝき也　仝

午四月開キ　角力會　右　催主　星運堂
差添　羅秀堂
おゝゆゝとやゆゝこゑゝる奇ゆ堂家入也　佐路

衣の袖と云爰引ッおそ作しさ　中葉
めくるまんを浪の打つのハ和哥の浦　言葉
はるゝ〳〵　橋やかゝすの声ゆり　立示
所哥で見まで伝ふくいやうすまを　如雄
殘とゝやさぬくゝ　するのの　雨譚
はるゝかゝそぐ爰ハなしかゝり　梅舎
伊勢がのハ鳴ノ和ゝくゝ　石斧
かゝ見ばゝけ　るひざごのがわり　素文
かまゝをゝそん大かゝ　石斧

見ゝ　ゝ　ゝ　

十三年忌ハ産しきと指ってきゝ　孝子
かゝるき娘　名法めふ入ゝ　弧声
明りゑをこゝろの形しで　言砂
盆ハ　ふんかもけの月てゝ　古去
樹のあば入白むくゝ生て　丘帆
おとゝいの樹若けさのつゝ　丘扇
天井へつゝくてまがる　丘徒
関ハ東へいさちいたとき　如雀
和ゝかふゝ　弧声

ぬ　ぬ
川でぞゝ　ぬのまいせのかゝ　糸柳
ゝゝゝて油と　習油　ぬ川ふ　亜キ　又麦
人まゝと　孫つぶして　ゝてかまゝ　又示
姫りを　のつゝふ　火縄切って　亜ン　黄麦
十年ハ　蝶ゝ九年　花ゝ　ゝ　素文
あごてゝ　蠅ハ　味へたかる　又雲
ゝゝゝふさいかちのめをつんでいる　間く
ゝ　おきをゝすゝ　亜きふ　入る　雨漏
ぬゝゝまつぶ　ゝと　ゝ　王簾

又ちなんぐつて伯母とすてゑ好き　門柳
まんざいのむざあんぐんの使ちのこも　石斧
新〻世界たるものうしてこそと拾ひ　言砌
ひで孔ィやーと女房見ぬ〳〵すり　又示
鮮のたもやーと森へ姫ハ結婚　又帆
うーかうさよえんぐ〳〵ぐうと入し　如雀
あびつさうす立おじ詰ヶもさぬこ　石斧
ゑ来りみぞるこもやあもふげ　又示
汁ゑ小袖とあげ〳〵二年かん　樵好

ぐうぶ有ん〻で山茂か孫ん子が入り　又松
つ〻合つさちまーちんぐ〻ふぬ〻ドリ　芝烟
立て見ろすこうてえろとぜげんて　又示
今近〻ひと喜やーう〻ぬき　和笛
川せげこ姫ゑのかてう舟ぐつき　寺香
ちー京小実ハぬ如命ハなおしこ　石斧
母一言とぐんぐ〻ものとおやぐて　芹史
ゑちきゑゑみぐ好きかりふりやまも　言砌
かんぐ志りたがるくるりく扉とみ　又帆

隣りこうこ百かりてあるこまへめく　丸清
きんぎい東方ぐりこ　ふつてある　天木
あんこのこ箱　如唐物　ゆすり　言砂
他人かりの入ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
三ぶりけそこ流るあこ　雨傘
いりうこ切こ戸と切て　言砂
こまこめこの八卦ぶ　車石
生酔の子きて　丸帆
こ仕へあんこ　丸秀
玉簪

十七八のたんこ　の丸　茶
江戸い鄙京ハ　ぶ　ぶ　ぶ　車板
下ぶて　茶ハ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
表ここの　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
かんたんのこ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
秋ぶかこ天狗が　ぶつい　ぶ　ぶ　ぶ
盗こ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
表ここ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
あんホこ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

男かけいとうとぬ　口伝し
むすこのもみぢ　やさまし〳〵　花丈
因あるさふ人も因ら〳〵そ人ふ成り　英泉
かるさんのむまんさとえって　いる　和歌
ちん家とそ人〳〵孫うして　ぞうら　文集
辻ぢんハ港ぶ　ぞ　ぢ　と　ぢ　ぢ　糸柳
そ色とあくぢ色しく　ぶいとる之　言砂
年ンぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　文集
西す義のごとく　ふとすふてくやつ　牧声

ぢり　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　雨　語
ぞくぢ男ぞと合好　ちぶら　ぢる　梅舎
たんぞくぶふかぶくり　ぢ　ぢ　門柳
森ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　文集
及ンものでぢ井　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　恩蝶
風呂蒲ふ　ぢ紙と色　ぢ　ぢ　ぢ　雨漂
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　寿舎
茶壺のハ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　英泉
上ぢ下ぢ　禅　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　猟声

ゆるの程いと声ざのとつぼ　いて　文集
あり茶でハ峯へぬ鎖のもしを形り　九秀
件　光のけいこ二十月ゑ〳〵祝ろう　石斧
姑さ〳〵　と仕さもちと七っくい　素多
三人で老人り奥ゑ子あきのくを　如雀
ち〳〵三とびんぼ神とおやぢい　掘声
是銭ハ老ぢ　めびとかぢるが上発之　九秀
そいゑ〳〵お志ゆ　といちやいゆおし　素多
つゑ仕立の祝こかくてまくて居る　雨僅

風上へ色ってすてる　古玄
おそ祝〳〵酒ゑんえ　玉亭
ゑの所をりまへらやげくまで形り　今
ゑきゑゑ〳〵ゑ花ゑの先きへ　掘機
仕ゑゑ時ゑゑ入るいけまり　言砂
新ハ老の本戸ぢん貢がさかさゑり　玉亭
八百の外代第ひつぶすゑり　洗路
用ゑじゑゑでハゑゑぬとちゑゑめ　文集

松のうち肉食無だんのしるつけ 接好
売と神よ ぶうさげてゆるるうり 又閑
寺行あるきも入レるつかけちゃやつと見ル 言祢
そ夏や絵ぶ ぶぶざと始ト くゝゑ気ゝ 英流
寺ゝ方ゝ坂ハゆ仏ゆ ふつゝて居る 洗路
如ゝ節寺ん ハ寺ゝ くゝぎゝ 福と形り 福急
仲条の引 札で下女くどかきる 福雲
鈍寺を ゝきくゝ 初ゝ ゝつてゆキ 狸声
初もめうゝ 寺のそゝつぎゝ ゆる 英流

代として姫さんが ゝ来ん 如花
俳諧 ゝ 地蔵 ハ ゝ ゝ ゝ ゝ 英流
木芽を ゝ きゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 又亭
木編言雲ふつゝ下女む ゝ形り 言祢
ちゝめるとさう 地紙 ゆ ゝ 仙花
ちゝ如 ゝ 女房の声で ゝ ゝ ゝず 又雪
八九人ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ やどり 文集
子 ゝ ゝ ゝ ゝ 下女八 ゝ ゝ ゝ ゝ 又的
三 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

いてうさ三つより年しの女房あり　みる
ふり川八の宗くるゆそくしろ帯　孤色
丁ゞがせつ茶やそ大きへ初食きそ　雨潭
茄子どつけで茶と呑もけびこすの　臭蝶
さしゞびすとくし髪もひらんぐん　孤舟
ゞこゞとさんこゞの門てかゞもち　孤声
俄面ゞ　とさしくむどひる　孤色
高ゞよそかるやくくえき徒ケいぐし　志木
角四川ぎゞゞこゞひとすてくる　素雪

拾条今せひゞが寸ぐん高ひより　洗吟
かりかゞ所とあくいるけいとく　玉簾
女房と新せしさゞる福りゞ　芹丈
よつ紙ゞあけこせる家ゞ初ゞく　雨僊
むくさきと男ゞくびゞむせつかん　丞
せものつ重茶のまゞのこまりて　孤声
まるゞ所こゞの松原芝ゞ拾ケ　口表
毎くゞいんろくゞ西所紬とすり　素雪
ぬき店ゞ毎ゞ　のい市のゞ重ゞの　令

けいせんい三人ばかり女郎ばかり　如雀
梅の枝うゑを賞るれ　ちん　日さ奥
焼きたくかぶせるなと屑　芙蓉
鳴田とはし　水あるぬ下話をめ　一町
面白くぬ事人をてもちをかりいく　言砂
火の井のそこちやきうゑ　梅　猿雲
ぜんばるの生きうを湯やかせて　雲　梅舎
きつ人ぶり多りぐが馬をりてけき　春文
ぬけかるのや糸　毋の有る事屋下　文雲

もの中黒先きけちをとこ　知水
ひるのうり舳屋のこどもあり　文集
暮いちやの余人へといかるんす　言砂
大三十り柳こり　かつてう　物る　文集
とんどよくた入ゥ　さ美をふ町　屋　横好
ちん谷賞すの香陰の絲　こさあり　芋丈
屋の紀の口元ト　くあくぼ　ぼ　言砂
言部の成すぐふ　ひ　引　新一口
てん女賞お酒をた　そと三浦　て　車井

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天明八申年初秋　　右角力　催主　軟　補助　芹丈

辞世　　五月九日　木綿屋

雲晴れて傑人宮や蟬の声　　二代　呉陵軒

右追善俳諧七三篇句如入仕近刻出板

柳七三ヘン　四十七

○俳諧風書品目録　江戸神田上野山王之麓　花屋舊次郎

俳風柳樽拾遺十冊　岡川傍柳　森川柳点　三篇

岡柳句程第之遺稿篇　江戸五交学柳句物点者　柳樽著

[illegible]

岡[illegible]　[illegible]

俳諧[illegible]